

はじめに

わたしたちはこの時代に生まれることを主なる神に決められ、また今、神によって生かされています。この世に生まれ、何を選択しどのような行動を起こすのかにより、「将来」進む方向が違ってきます。「将来」と書きましたが、これは自分の限られた人生の話ではなく、終わりがなく永遠と続く将来を意味します。それを「知らない」で生きている人たちが、日本には大勢いるのです。

日本は、仏教や神道といった偽の神を祭る宮がいくつもあり、日本人は悪魔、悪霊がそれにかかわっていることを知りません。

また生まれたときからそれらが生活環境の中にあるので不思議にも思いませんし、幼いころから神社などのお祭りに参加させられ、よいものだと教えられて育ってきました。また、周りにある自然物さえも神のように祭っていませんか。自然物が神であると信じて崇めることさえも伝承、伝統化されて淡々と人々は生きているのです。

もし、あなたが真実の神を知らないで生きていたならば、淫府へ行く道を辿っていますから、肉体が減びた後に霊はそこへ入ることになります。「神を知らなくても悪いことをせずに善い行いをすれば天国へ行けるのでは……」と、人は思いがちですが、そこが悪魔、悪霊の惑わしであり大きな過ちなのです。神はそのようなルールをつくられていません。神は人に罪があつたら滅びると言っているのです。そしてそのことを「死」といいます。死のあるところは無窮の苦しみを延々と味わう恐ろしい場所であつて、つくり話や偽り話ではないことを知ってほしいのです。だれもが聞いたことのある地獄が、本当に存在していることを知ってほしいのです。もちろん、天国も存在しています。

ところで、筆者は平凡な人間です。凡人であつてキリスト者としては小さな器なのです。しかし、どういうわけかこの原稿を書いています。なぜ筆者が本を出すことになったのか、それは主なる神しかわかりません。というのも筆者から希望したわけではないからです。

牧師でも学者でもない筆者ですが、この原稿は『聖書』の言葉を記しながら、自身の経験や

知識を書き加えているものです。まだイエス・キリストをよく知らなかったり受け入れていなかったりする人々へ、真実の神を少しでもお伝えできれば幸いです。

今わたしたちが生きているこの時代は終末です。主イエスの再臨が刻々と近づいていて、実はのんびりしている時間がないのです。なぜならこの世界はもうすぐ終わるからです。「いや、終わるわけがない。延々と続くに決まっている」と思うかもしれませんが、残念ながら終わるのです。というのも、『聖書』に書かれたとおり終わりに近いしるしが、現在見られているのを感じ取っているからです。また『聖書』の言葉は必ず成就します。ですから、わたしたちの救い主である主イエスを受け入れることが、どんなに大切なかわかります。皆さんが真実の神に出会えますように、どうか叫び求めてください。

【わたしは、わたしを愛する者を愛する、わたしをせつに求める者は、わたしに出会う。】

(『箴言』八章十七節)

と、書かれているとおり、姿が見えなくても声が聞こえなくても、主イエスを求めれば神の靈の力により感じ取れるのです。ですから求めてください。

今回、出版する機会を与えてくださった主イエスに、そして出版社の方々に心から感謝いたします。また一人でも多くの人々が世の惑わしから目覚め、日本の国がキリストの栄光で満たされますように心から祈っています。